

# 2026年度日本社会教育学会 六月集会 プログラム

2026年6月6日(土) 13:00～18:15 (受付 12:30～)

6月7日(日) 9:00～17:10 (受付 8:30～)

6月6日 (土)	受付 12:30～	13:00～16:00		16:15～18:15	18:30～
		プロジェクト研究 「DX時代の社会教育・ 生涯学習の課題」		社会教育士 特別 プロジェクト	全国 理事会
6月7日 (日)	受付 8:30～	9:00～12:00	昼食	13:00～15:00	15:10～17:10
		プロジェクト研究 「男女平等・ジェンダー 公正をめぐる課題と社 会教育の可能性」		会場校企画 「平和を学び、語 り合える場をど うつくるか？」	ラウンド テーブル ①～⑦

- ◇会場 駒澤大学 駒沢キャンパス(4頁に地図)
- ◇受付 6月6日(土) 12:30～ 3号館(種月館)2階  
6月7日(日) 8:30～ 1号館2階
- ◇参加 **事前参加申込みのみ**(当日の参加受付はありません。)  
参加費についても事前振込  
※事前参加申込み方法については2頁参照のこと
- ◇昼食 日曜日は校内の学食等は開いていないため、各自でご準備ください。

## 【各地の研究集会】

◎東北・北海道研究集会 (東北大学 川内南キャンパス)	5月30日(土)・31日(日)	11頁
◎東海・北陸地区社会教育研究集会 (名古屋大学東山キャンパス)	6月13日(土)	13頁
◎関西研究集会 (関西大学梅田キャンパス)	6月28日(日)	15頁
◎中国・四国地区社会教育研究集会 (岡山市立高島公民館)	6月14日(日)	16頁
◎九州・沖縄地区六月集会 (長崎大学文教キャンパス)	6月27日(土)・28日(日)	17頁

**ご注意** 天候や感染症などの影響により、日程・会場の変更や取止め等の場合がありますので、参加される方は必ず事前に学会HPで確認するようお願いいたします。

## □六月集会の事前参加申込について

六月集会参加は事前申込みとなります。

参加希望の皆さまには、学会ホームページよりオンライン参加登録手続きを行っていただきます。  
(オンラインで手続きが出来ない方は、事務局までご連絡ください。)

集会当日の参加受付はいたしませんので、**必ず**事前に参加申込みと参加費事前振込をお忘れなきようお願いいたします。

準備の都合上、お申込み後のキャンセルはご遠慮ください。

### ●オンライン事前参加申込受付：5月1日(金)～5月20日(水)

学会HPの画面左下にある<六月集会参加申込システム>から参加登録をしてください。

下記振込先に入金してください。入金が確認できない場合は、参加申し込みとなりませんので、ご注意ください。

※学部生も参加申込みが必要です(学生証添付の上、参加費無料)。

※プログラムの一部参加の場合も、参加申込みが必要です。

### ●参加費の支払い：一般・院生 1,500円/学部生 無料(但し、学生証添付)

※学会員の院生は学生証添付の上、1,000円

※非会員も参加費は同額です。

振込先：ゆうちょ銀行

振替口座：00150-1-87773

口座名：日本社会教育学会

◎他金融機関からの振込用口座番号：〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)当座0087773

### ●問合せ先

日本社会教育学会事務局 <HP <https://www.jssace.jp/>>

〒189-0012 東京都東村山市萩山町2-6-10-1F

E-mail: [jssace.office@gmail.com](mailto:jssace.office@gmail.com)

(祝祭日除く月・木曜日 10:30-16:30)

## □参加者への注意事項

- ・天候や感染症等の影響により、開催方法等を変更する場合がありますので、参加される方は、必ず事前に学会 HP で確認するようお願いいたします。
- ・会場校の構内でのマスクの着用は任意です。ただし、状況次第では着用をお願いすることになりますのでご承知おき下さい。
- ・要旨集は当日受付での配布はございません。事前参加申込みをした方のみアクセス出来る「参加者ページ」に事前に掲載されますので、各自ダウンロードしてください。「参加者ページ」のご案内は準備出来次第メールにてお知らせいたします。
- ・当日、会場では参加者用の WiFi 提供はありません。

## □会場校連絡先

萩原建次郎

〒154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1 駒澤大学総合教育研究部教職課程部門 萩原研究室

電話：03-3418-9338（研究室直通）

E-Mail アドレス：hagiwara@komazawa-u.ac.jp

## □会場（駒澤大学 駒沢キャンパス）

所在地 〒154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1

<電車でのアクセス>

○東急田園都市線「駒沢大学」駅より徒歩 10 分

○東急田園都市線「桜新町」駅より徒歩 20 分

<バスでのアクセス>

○「渋谷」駅（JR 山手線・東急田園都市線等）より

東急バス「渋 82 系統 等々力行き（23 番乗り場）」から

「駒沢」停留所を下車、徒歩 1 分

○「二子玉川」駅（東急田園都市線）より

東急バス「玉 12 系統 駒沢大学駅行き（1 番乗り場）」から

「駒沢」停留所を下車、徒歩 4 分

## □会場（駒澤大学 駒沢キャンパス）アクセス



## □会場（駒澤大学 駒沢キャンパス）構内案内図



## 【第1日 6月6日(土)】

**プロジェクト研究「DX時代の社会教育・生涯学習の課題」----- 13:00～16:00**

テーマ 「リテラシーの多元性」と成人の学習を考える

司会 長岡 智寿子(田園調布学園大学)

坂本 旬(法政大学)

報告Ⅰ 「本プロジェクトの企画の背景について」

長岡 智寿子(田園調布学園大学)

報告Ⅱ 「DXと社会教育・生涯学習の課題について」

坂本 旬(法政大学)

コメンテーターⅠ 大安 喜一(公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター)

コメンテーターⅡ 堀 薫夫(大阪教育大学名誉教授)

企画趣旨 社会の急速なデジタル化は教育や社会開発における主要課題となっている。ユネスコは2000年代以降、デジタル社会の到来を背景に「リテラシーの多元性」を強調し、従来の文字の読み書きに限定されない新たな「リテラシー」の必要性を示してきた。デジタルテクノロジーは多元的リテラシーの基盤であり、教育政策や識字運動にも大きな影響を与えている。特に途上国では安価な端末の普及によりデジタル化が急速に進み、映像を含む情報を読み解くデジタルリテラシーは従来の「識字」概念では捉えきれなくなっている。ユネスコはICTが識字学習の単なる手段ではなく、リテラシー強化そのものであり、SDGs達成にも不可欠と指摘する。また、偽・誤情報が民主主義を脅かす現状を踏まえ、デジタルリテラシー、メディア情報リテラシー、グローバル・シティズンシップの統合を求めている。

今日、デジタルテクノロジーを活用することにより、社会とのつながり、民主主義の下で市民社会への社会参加について学ぶことがより重要性を増してきている。本プロジェクトでは、デジタルテクノロジーを活用して社会の仕組みや環境を変革していくDX(デジタルトランスフォーメーション)時代における社会教育、生涯学習の課題について、多元的リテラシーの観点から成人の学習のあり方を検討する。

キックオフとなる今回の六月集会では、提案者による趣旨説明に加え、これまでの社会教育学会におけるプロジェクト研究の動向についても整理する機会としたい。質疑応答後には、会員の声を広く集めるためのグループワークも実施し、今後3年間の本プロジェクト研究の課題の方向性を多角的に検討する。

## 社会教育士特別プロジェクト

「社会教育士特別プロジェクトのまとめにむけて」----- 16:15 ~ 18:15

司 会 李 正連（東京大学）

向井 健（松本大学）

報告1 「社会教育士の実態 —社会教育士調査から」

生島 美和（帝京大学）

若園 雄志郎（宇都宮大学）

報告2 「社会教育士特別プロジェクトのまとめ案」

内田 純一（高知大）

コメンテーター 青山 鉄兵（文教大学）

内田 光俊（岡山市）

開催趣旨 2023年9月に発足した社会教育士特別プロジェクトも、2026年9月の研究大会をもって終結となる。この間、社会教育士をめぐる課題に応じて5つの部会を設け、それぞれ熱心な調査活動をすすめ、大会やジャーナル等でその成果を報告してきた。9月の研究大会においては、ひとつの方向性を持った提言的なまとめを示すことを試みたいと考えている。本6月集会では、その前段としての案を提示し、文部科学省「社会教育主事・社会教育士養成等の改善・充実に関するワーキング・グループ」のまとめ役である青山鉄兵氏と実践者として発信されてきた内田光俊会員を招いてコメントをいただくとともに、会場の参加者からもご意見をいただく機会としたい。また部会による「社会教育士調査」の結果は示唆に富むものであり、合わせてその報告をいただき、まとめに結びつけていきたい。

【第2日 6月7日（日）】

 プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」

----- 9:00 ~ 12:00

テーマ 男女平等・ジェンダー公正と社会教育（1）

—地域社会のジェンダー秩序と社会教育研究の再検討

司 会 赤池 紀子（東京未来大学・非常勤）

辻 智子（北海道大学）

問題提起 プロジェクト研究運営委員会

報告Ⅰ 「1960年代の農民学習運動における農村女性へのまなざし」

木下 卓弥（石巻専修大学）

報告Ⅱ 「ポスト高度成長期における団地の子育て運動——板橋区高島平の経験から」

和田 悠（立教大学）

報告Ⅲ 「地方都市における女性の学習をめぐる論点」

島本 優子（徳島市役所）

企画趣旨 プロジェクト研究最終年度となる3年目（2026年度）は、これまでの議論を踏まえ、社会教育実践を切り拓く展望を探ることを課題とする。そのために、まず六月集会では、これまでの蓄積と現代的な状況を踏まえて地域社会におけるジェンダー秩序と社会教育実践、そして社会教育研究との関係を検討し、秋の研究大会へつなげる。そもそも「地域社会」自体が自明ではなく、人の移動や生活圏の広がりとともに「暮らしの場」も一様にはとらえ難い。そこで、やや典型的ではあるが、いったん、農村／都市／地方と措定し、それぞれの場に身をおく生身の人間の視点から、見えたもの、書かれたもの、経験されたものなどを、読み直し、突きあわせる。

報告Ⅰは、1960年代の農民学習運動の記録を再読し、そこに存在しながら目を留めてこなかった記述への着目から農村社会のジェンダー秩序と社会教育研究を検討する。

報告Ⅱは、ポスト高度成長期以降の都市の地域社会の変容と市民運動の展開を社会教育研究とジェンダーの視点から再考しつつ現在状況から今後を展望する。

報告Ⅲは、「地方」自治体と社会教育の実情を押さえながら女性の学習をめぐる論点を整理し、そこから報告Ⅰ及びⅡとの関係を探る。

以上の報告をもとに全体で議論を行い上記の課題に迫る。



## 会場校企画「平和を学び、語り合える場をどうつくるか？」

----- 13:00 ~ 15:00

司会・コーディネーター 萩原 建次郎（駒澤大学）

報告1 「川崎市平和館の取り組みから」

暉峻 僚三（駒澤大学非常勤・川崎市平和館）

報告2 「せたがや未来の平和館の取り組みから」

宮阪 和則（せたがや未来の平和館）ほか

コメンテーター 歌川 光一（聖路加国際大学）

開催趣旨 現在、世界各地で大規模な紛争や侵攻、戦争が起こり、日本においても「戦争」という言葉が身近な話題となってきている。一方、日本社会においては個人化が進み、互いの気持ちを安心して語り合える機会や場、人間関係を取り結ぶことも困難になりつつあるように思われる。そうしたなかで、子どもや若者も含め、私たちが身近に平和を学び、語り、考える機会や場はどれだけあるだろうか。このような問題意識のもと、今回の会場校企画を発案した。

本企画では、川崎市平和館および世田谷区せたがや未来の平和館の取り組みについて、両館の職員からご報告いただく予定である。両館は、平和学をベースに、足元の平和・非平和からグローバルな平和問題まで、幅広く事業を展開している。また、戦争に関する展示企画だけでなく、積極的平和を展望し、人権、ジェンダー、多文化共生など、さまざまな角度から平和を考えるワークショップなども行っている。

そのような取り組み事例を手がかりに、平和を学び、語り、考え合える場をどのようにつくりたいのか、参加者と共に考える機会としたい。



## ラウンドテーブル

----- 15:10 ~ 17:10

### ①社会教育施設概念の再検討（その3）

コーディネーター

姉崎 洋一（北海道大学名誉教授）

石川 敬史（十文字学園女子大学）

生島 美和（帝京大学）

金子 淳（桜美林大学）

栗山 究（法政大学非常勤）

瀧端 真理子（追手門学院大学）

長澤 成次（千葉大学名誉教授）

報告者

篠原 佑典（臨済宗円覚寺派宗務本所学芸員・元めぐろ歴史資料館研究員）

開催趣旨 社会教育施設の法制度が揺らぐ今日、その概念そのものを問い直し、豊饒化する必要がある。今回は、施設の統廃合や縮小移転が進行する目黒区で、学芸員、社会教育主事、

社会教育指導員そして市民が、地域の社会教育活動の蓄積に目を向け、学習会や調査を通じて行ってきた、資料の保存と活用の展開について報告いただく。この事例から、社会教育施設が持つ公共性、住民自治を創る学びの組織化や保障について議論を深めたい。

## ②人口減少社会における「高等教育と生涯学習」再考3 ―学び直しの文化を地域に―

コーディネーター 村田 和子（和歌山大学（名）） 出相 泰裕（大阪教育大学）

報告者 三宅 睦美（信州大学）

堀本 麻由子（東洋大学）

コメンテーター 上原 直人（名古屋工業大学）

小栗 有子（鹿児島大学）

開催趣旨 今回のテーマは、高等教育を活用した学び直しの文化を地域にいかに関り出していけるか、である。焦点を当てるのは、産官学金の連携を視野においた職業人としての学び直しである。社会教育研究の領域では、これまで対象化してこなかったテーマであるが、中央と地方、大企業と中小企業、私立大学と国公立大学等の関係を軸に据えることで、高等教育機関の果たすべき役割や取り組むべき課題について、事例に基づき多角的に検討する。

## ③アカデミズムにおける社会教育実践家・研究者への抑圧・排除メカニズム

―大学・学会のガバナンスと倫理をめぐる構造的問題に切り込む―

コーディネーター 出川 真也（NPO 法人里の自然文化共育研究所）

報告者 岡山 茂（早稲田大学名誉教授・日仏教育学会会長・大学評価学会顧問）

開催趣旨 社会教育研究は、実践家と緊密な関係にあると思われてきた。だが実数を見ると、大学教員や、社会教育職員養成を標榜する研究団体等で、実践家といえる者の割合は2割に満たず、実践家排除の構造が存在する。

本テーブルでは、社会変革を志向する実践家研究者への抑圧とどう向き合うか、アカデミズムのガバナンスと倫理、本来的使命とは何か、フランス大学研究の知見から話題を提供し、社会教育実践家研究者の復権の糸口を探る。

## ④新自由主義から降りるユースワーク ―社会教育・学校実践との対話から可能性を探る―

コーディネーター 両角 達平（日本福祉大学）

報告者 両角 達平（日本福祉大学）

田中 亨（園田学園大学）

阿比留 久美（早稲田大学）

開催趣旨 本ラウンドテーブルは、日本における新自由主義から降りるユースワークの可能性を検討することを目的とする。近年、若者支援は自己責任や能力形成を強調する政策枠組みの影響を受けてきた。本企画では、社会教育研究の視点、北星学園余市高等学校での実践経験、ユースワーク研究の理論的検討を持ち寄り、若者の自由や主体性を支える実践のあり方について議論する。

## ⑤子ども・ユースワークの専門性の構造とは

### —子ども・若者支援に携わる専門職の力量形成と研修等のあり方(9)—

コーディネーター 生田 周二 (奈良教育大学) 水野 篤夫 (ユースワーカー協議会)

川野 麻衣子 (北摂こども文化協会) 帆足 哲哉 (広島国際大学)

報告者 生田 周二 (奈良教育大学)

開催趣旨 本年度から4年間、科研費による研究「子ども・若者支援における「専門性の構造」の解明—構造分析に基づく提案—」を展開する。子ども・若者支援は、多様で複雑な課題に直面する中で、従来の知識・スキル・価値観だけではなく、「センス」を含めた専門性の全体像を理論的に解明することが求められている。今回は、支援者の専門性を「基礎」「対象世界」「支援アプローチ」で構成される仮説モデルの検討を手始めに考え合いたい。

## ⑥社会教育現場における差別事象と学習

コーディネーター 上杉 孝實 (京都大学名誉教授)

報告者 森 実 (大阪教育大学名誉教授)

菅原 智恵美 (大阪公立大学人権問題研究センター特別研究員)

開催趣旨 さまざまな社会教育現場で差別言動やハラスメントなどが発生し、対応が問題となっている。それらの事象を「個人の問題」ではなく、「組織の問題」として捉え、新たな学習活動へと結びつけることが求められている。このラウンドテーブルでは、大阪での識字の現場をめぐる取り組みを報告し、組織的対応のあり方と、学習活動創造への結びつけ方をめぐる試行錯誤を紹介する。報告を呼び水として各地の取り組みや考え方を交流したい。

## ⑦社会教育士の能力尺度の開発

コーディネーター 三宅 隆史 (立教大学)

報告者 倉持 伸江 (東京学芸大学)

荻野 亮吾 (日本女子大学)

コメンテーター 渋江 かさね (静岡大学)

田中 梨絵 (天理大学)

若園 雄志郎 (宇都宮大学)

開催趣旨 社会教育士の養成・研修に関する議論が活発だが、その能力評価の尺度開発は遅れている。この課題をふまえ、社会教育士の3つの能力(ファシリテーション、コーディネーション、プレゼンテーション)の構成要素に関して社会教育研究者・実践者への意見聴取を行い、尺度の暫定案を開発し、全国9大学の協力を得て311名の課程履修者に対する質問紙調査を実施した。調査分析の結果をもとに開発した社会教育士の能力を測定する尺度案について議論したい。

5月30日(土)～5月31日(日)

## 地域再生への教育計画⑦

◇プログラム：

5月30日(土) 14:00～17:30 (予定) シンポジウム

司会 宮崎 隆志(北海道文教大学)・石井山竜平(東北大学)

報告① 「地域再生への教育計画」の蓄積からの本シンポジウムへの「問い」

宮崎 隆志(北海道文教大学)

報告② 縮小を続ける気仙沼から社会全体の学び・教育を変える

加藤 拓馬(一般社団法人まるオフィス代表理事・社会教育士)

報告③ 不登校・ひきこもりの子ども、若者が安心できる居場所をめざして

中村 みちよ(一般社団法人フリースペースつなぎ代表理事)

報告④ 議員として取り組む市民参加と協働のまちづくり

三浦 友幸(気仙沼市議会議員)

コメンテーター 野村 卓(北海道教育大学)、木下 卓弥(石巻専修大学)

開催趣旨 北海道・東北六月集会では「地域再生への教育計画」をテーマに回を重ねてきた。近年では、民民的な立場から公教育の内容編成のアップデートに関与している実践(2024:十勝うらほろ楽舎(北海道・浦幌)、底上げ(宮城・気仙沼)、EMANON(福島・白河) / 2025: AIS プランニング(札幌)、ezorock(札幌))や、公教育の外側に民的に教育創造を試みている実践(2023:まおい学びのさと学校(北海道・長沼)に注目してきた。

本テーマの最終回となるこの度は、エリアを宮城県気仙沼市に絞り、そこで異なる立場から教育の再創造を目指す方々に集っていただき、協議を行う。気仙沼市は現在、9校ある中学校を4校に再編する方針が示されている。小学校は現段階では全12校を維持するという方針であるが、2031年には全学年単学級となることが見込まれてるなど、厳しい人口減の渦中にある。

ご報告いただく2法人はいずれも震災を機に誕生した法人である。公教育が縮小しているなかであって、公教育の外側に、学校に馴染めない子たちの通えるフリースペースを立ちあげた「つなぎ」、中高生の「探究的な学び」を市民的な立場から支援している「まるオフィス」からは、それぞれが公教育とどのような関係をもちながら、今日の事業の質を創り上げてきたのか、今後に創ろうとしているのか、を論じていただく。

三浦友幸氏は、東日本大震災後の気仙沼・大谷地区において、粘り強く住民の対話の場をつくり合意を形成し、国から降りてきた防潮堤計画を修正して浜を残すという経験をされた。その延長に、現在は気仙沼市議となり2期を終えられたところである。そうした立場から気仙沼市のガバナンスはどのように映っているのか。厳しい人口減少に象徴される地域の危機的未来に対応した教育計画を導いていく展望をどのように見、活動してらっしゃるのかを論じていただく。

後半は、学会員より、野村卓会員(北海道教育大学)、木下卓弥会員(石巻専修大学)から口火的なコメントを受け、参加者全体で今後求められる社会教育研究の方向と質について

の協議を行う。ここに、ご参加いただく皆様のご経験やご意見を共有していただけると幸いです。

5月31日(日) 9:30～15:00(予定) 自由研究発表

◇会場：東北大学川内南キャンパス文科系総合研究棟 11階 大会議室・中会議室  
(東北大学大学院教育学研究科)

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 27-1

<https://www.sed.tohoku.ac.jp/overview/access.html>

◇参加費：一般 1000 円、学生 500 円

◇申し込み先：以下の URL あるいは QR コードよりお申し込み下さい。

<https://forms.gle/2KXzoaQHVNFZLB4d7>

\*自由研究発表締切：2026年5月7日(木)

\*参加申し込み締切：2026年5月18日(月)



◇アクセス：(仙台駅から地下鉄を利用する場合)

・仙台市営地下鉄〈東西線〉「仙台」駅で「八木山動物公園」駅行きに乗車。

・「川内」駅で下車。南へ徒歩6～9分

(川内北キャンパスをつきぬけ川内南キャンパスへ)

◇連絡先：〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 27-1 東北大学大学院教育学研究科

石井山 竜平 (ishiiyama@hotmail.com)

松本 大 (matsumoto.dai@ouj.ac.jp)



6月13日(土) 13:00～17:00

障害者の社会教育・生涯学習 —愛知の実践より—

◇プログラム:

趣旨説明 河野 明日香 (名古屋大学)

司会 徐 真真 (名古屋大学)

河野 明日香 (名古屋大学)

報告1 「愛知・名古屋における障害者の社会教育の展開と今後の課題」

長岡 甫 (名古屋大学大学院・日本学術振興会特別研究員 DC)

報告2 「学校卒業後の障害青年の居場所「わくわくサークルエンジョイ+」の取り組み」

志村 美和 (愛知県立大学他非常勤講師)

報告3 「生活という土壌から生まれる表現と、地域へひらく『学び』の回路」

仲畑 芳紀 (社会福祉法人あさみどりの会・べにしだの家)

報告4 「見晴台学園大学における青年の学習権保障～自分らしくもっと学びたい」

藪 一之 (NPO 法人みはらしだい 見晴台学園大学 (法定外))

報告5 「笑う生活、喜び合うふわふわ

—地域に開かれた「"やっぱり、街に生きる"ゼミ」の取り組みから—」

鈴木 将矢、大野 友暉、岡本 蒼太、長岡 甫 (“やっぱり、街に生きる”ゼミ)

コメンテーター 田中 良三 (見晴台学園大学名誉学長、愛知県立大学名誉教授)

◇参加費：無料

◇申込み：次の URL から事前申し込みをお願いします。

<https://forms.gle/bUdmC5AtZTr54eVD7>



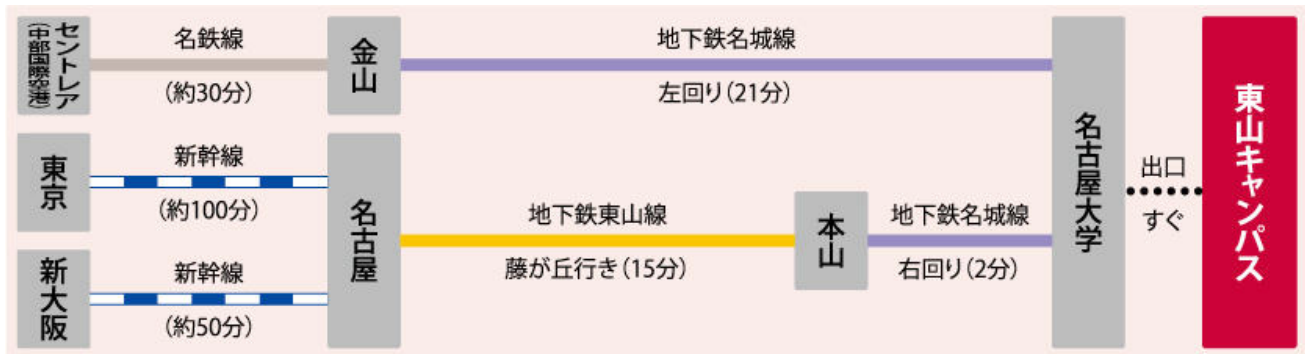
◇会場：名古屋大学東山キャンパス教育学部講義棟 2 階大講義室

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

◇アクセス：名古屋市営地下鉄名城線「名古屋大学駅」下車すぐ

◇連絡先：河野 明日香 (名古屋大学) 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

Email: kawano.asuka.w4@f.mail.nagoya-u.ac.jp



受付・主会場

## 第50回 関西研究集会

関西大学

6月28日(日) 10:00～16:30

現場とともに交流と対話の方法をさぐる(5)

～大学で社会教育を学ぶ意味～

## ◇プログラム:

&lt; 10時～12時 &gt;

開会あいさつ 赤尾 勝己(関西大学名誉教授)

対談「社会教育主事・社会教育士を養成する大学の思い」

奥村 旅人(京都大学)

岩槻 知也(京都女子大学)

進行役 津田 英二(神戸大学)

&lt; 13時30分～15時50分 &gt;

現場からの声

殿城 幸雄(滋賀県社会教育士)

堀内 信宏(海南市産業振興課長)

斉藤 麻未(公益財団法人・京都市ユースサービス協会)

司会 村田和子(和歌山大学名誉教授)

&lt; 15時～16時30分 &gt;

意見交換・交流

ファシリテーター 佐藤 祐介(和歌山大学)

村田 和子(和歌山大学名誉教授)

## ◇会場:

関西大学梅田キャンパス 701室

## ◇アクセス

JR大阪駅から徒歩7分、阪急梅田駅から徒歩5分、スターバックスコーヒーと蔦屋書店がある建物の7階701室です。

## ◇申込み

参加をご希望の方は、次のサイトにアクセスし、フォームに必要事項をご記入ください。

<https://forms.gle/Mgi7ypotXXaYJ4D39>



6月14日(日) 13:00～16:30

## 社会教育的視点からみる「地域と学校」2 —岡山県を事例に—

## ◇プログラム:

司会 松田 弥花 (広島大学)

報告① 「学校や地域の課題解決につながるコミュニティ・スクールの推進

—地域と学校の連携・協働による地域防災の取組を通して—

安田 隆人氏 (岡山県教育庁生涯学習課 (社会教育士))

報告② 「中高校生ボランティア『高島地域づくり隊』

—地域づくり隊の全員で高島の人を笑顔にする—

小槇 祐子氏 (岡山市教育委員会事務局生涯学習課公民館振興室)

コメンテーター 内田 光俊 (岡山市立西大寺公民館)

大野 公寛 (島根大学)

◇会場: 岡山市立高島公民館 岡山市中区国府市場 99-5

## ◇アクセス:

JR 山陽本線 (普通) 高島駅下車徒歩約 20 分 ※岡山駅から高島駅間は約 6 分

バス 宇野バス 四御神行き 国府市場下車徒歩 2 分

両備バス 旭川荘行き 国府市場西下車徒歩 3 分 ※宇野・両備バスとも、岡山駅前から約 30 分

## ◇申込み

5月31日(日)までに URL か QR コードよりお申し込みをお願いいたします。

<https://forms.gle/XaK8yez7rLc1vviXA>

→ QR コード



◇連絡先: 松田 弥花 (広島大学)

Email: [yaka-matsuda@hiroshima-u.ac.jp](mailto:yaka-matsuda@hiroshima-u.ac.jp)

6月27日(土) 13:30～17:00

6月28日(日) 10:30～13:00

## 合併後(79→21市町村)の長崎社会教育体制の現状から未来を語る

## —地域の人と向き合い社会教育を創造しつづけるために—

長崎県は、平成の大合併によって79市町村から21市町村に自治体数が激減した(減少率73.4%)。広島県も同じように86市町村から23市町村に減少しており(73.3%)、両県の減少率は国内でも最大であり、1位と2位の順になる(なお、第3位は新潟県(112市町村から30市町村:減少率73.2%)、第4位は大分県(58市町村から18市町村:減少率69%))。これらが招くのは、社会教育職関連職員一人が担うべき職務の対象範囲の広域化・拡大化であり、それだけに住民一人一人に届くべきはずの社会教育が地域の隅々まで染み渡らないという事態である。そしてまた、合併前自治体が有した複数社会教育施設の維持・管理業務の負担増大という現実である。

本九州・沖縄地区六月集会ではこのような課題意識を前提に、あらためてこの合併後市町村社会教育の現実と帰結を再考することを大きなねらいとし、市町村数激減地域の社会教育行政、社会教育職員(社会教育士)、社会教育施設、学校地域連携等の動向と変化の過程を総合的に検討する。このことを通して、長崎の社会教育体制の現在地を具体的に把握し、これから地域住民と社会教育がどのような関係を再構築し、新たな地域社会教育を創造することができるのかについて、社会教育専門職のあり方にも注目しながら議論を深める。

平成の大合併の痛みや困難は、全国各地でこれまで多く聞かれてきた。それらを踏まえ、どのような社会教育の未来を展望し、新たな実践を創造できるのか、比較対象となりうる他都市の事例も踏まえながら新たな知と実践の創造に挑む。

## ◇プログラム:

一日目 6月27日(土) 公開シンポジウム

司会 農中 至(鹿児島大学)・小栗 有子(鹿児島大学)

基調報告 「合併後(79→21市町村)の長崎社会教育体制の推移と課題」

椋本 博志(長崎大学)

報告1 「佐世保市の社会教育体制の課題と社会教育士の動向」

公文 拓馬(佐世保市役所)

報告2 「地区公民館の財団委託と地域に寄り添う公民館職員

～市町村合併からの周辺地域再生への取り組み」

浜田 宗則(日田市公民館運営事業団)

コメンテーター 上野 景三(西九州大学)・岡 幸江(九州大学)

二日目 6月28日(日) エクスカーション

つくる邸(斜面地・空き家活用団体つくる)の訪問

〒850-0931 長崎県長崎市南山手町13-24

◇会場：長崎大学文教キャンパス（教育学部棟 21 番教室） 長崎市文教町 1-14

◇アクセス：

路面電車「長崎駅前」または「浦上駅前」から「赤迫」行きに乗って「長崎大学」下車、徒歩 1 分

バス「長崎駅前」または「浦上駅前」から 1 番系統に乗って「長崎大学前」下車、徒歩 1 分

飛行機 バス「長崎空港 4 番のりば」から長崎方面行き（昭和町・浦上経由）に乗って「長大東門前」下車

◇申込み：

参加をご希望の方は、下記の申し込みフォームに必要事項を記入の上、6 月 22 日（月）までにお申し込みください。6 月 22 日（月）以降に頂いたメールアドレスに当日の会場等の詳細をご案内します。

<https://forms.office.com/r/5PzcJZ0Ly9>

→ QR コード



◇連絡先：農中 至（鹿児島大学）

電話：099-285-7603

Email：nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp



---

## 日本社会教育学会 2026 年度六月集会・研究集会プログラム

2026 年 4 月 28 日発行

【発行】日本社会教育学会事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail：jssace.office@gmail.com <https://www.jssace.jp/>

【会費等納入先】

ゆうちょ銀行 振替口座 00150—1—87773（口座名：日本社会教育学会）

他金融機関からの振込用口座番号 ○一九（ゼロイチキュウ）店（019）当座 0087773

---